

卒業生の就業力に関するアンケート 結果報告

名古屋学芸大学 キャリアサポートセンター

調査概要

160社を超える採用担当者からの回答

調査対象 : 479社

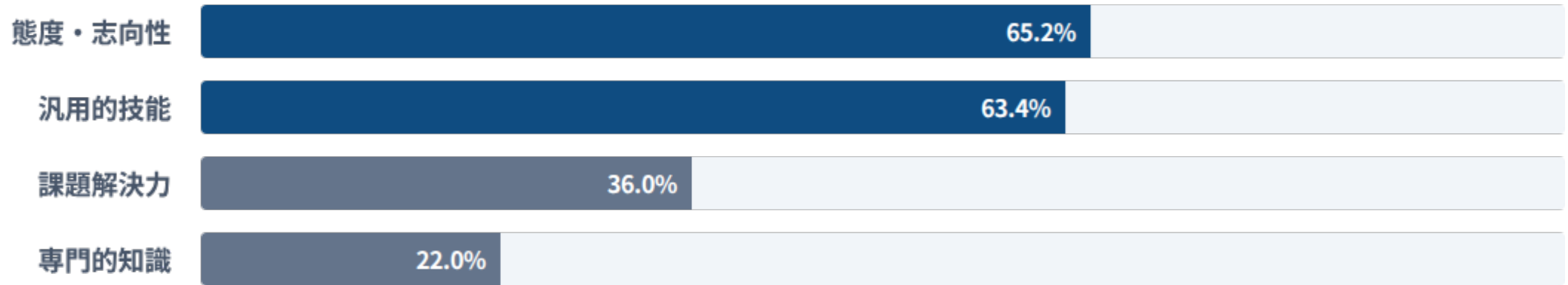
回答数 : 164社 (回答率 34.2%)

実施時期 : 2025年9月～10月

回答方法 : WEB または FAX

企業の採用基準：「人間性・基礎力」を最優先

Q. 採用に当たってどのような点を重視しますか。（「重視する」の割合）



態度・志向性 = 自己管理能力、周囲(他者)への配慮、倫理観、社会的責任等の態度・志向性

汎用的技能 = 知的活動や社会生活において必要となる情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力等の汎用的技能

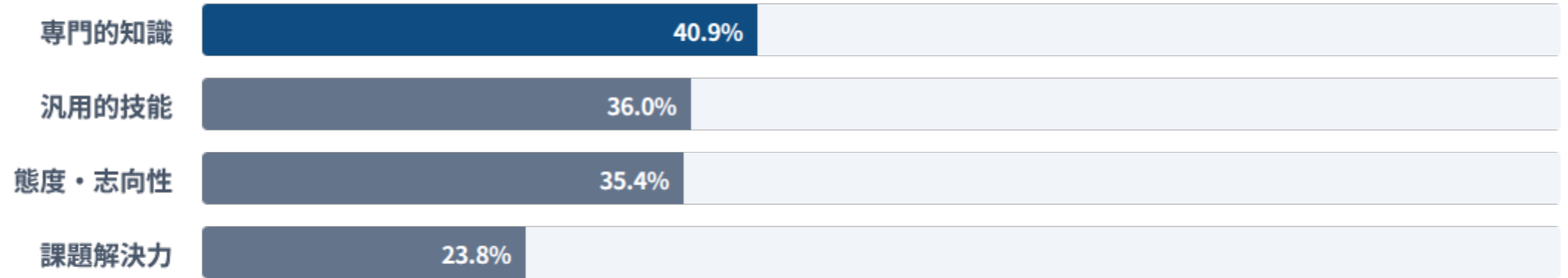
課題解決力 = 獲得した知識・技能・姿勢等を総合的に応用する課題探求能力と問題解決力

専門的知識 = 卒業した学科・専攻の分野における 基礎的・専門的知識

企業は「何を解決できるか(スキル)」の前に「どう振る舞うか(スタンス)」を重視している

卒業生の評価：「専門的知識」に強み

Q. 本学卒業生は、どの項目を身に付けていると思われますか。（「身に付いている」の割合）



専門的知識 = 卒業した学科・専攻の分野における 基礎的・専門的知識

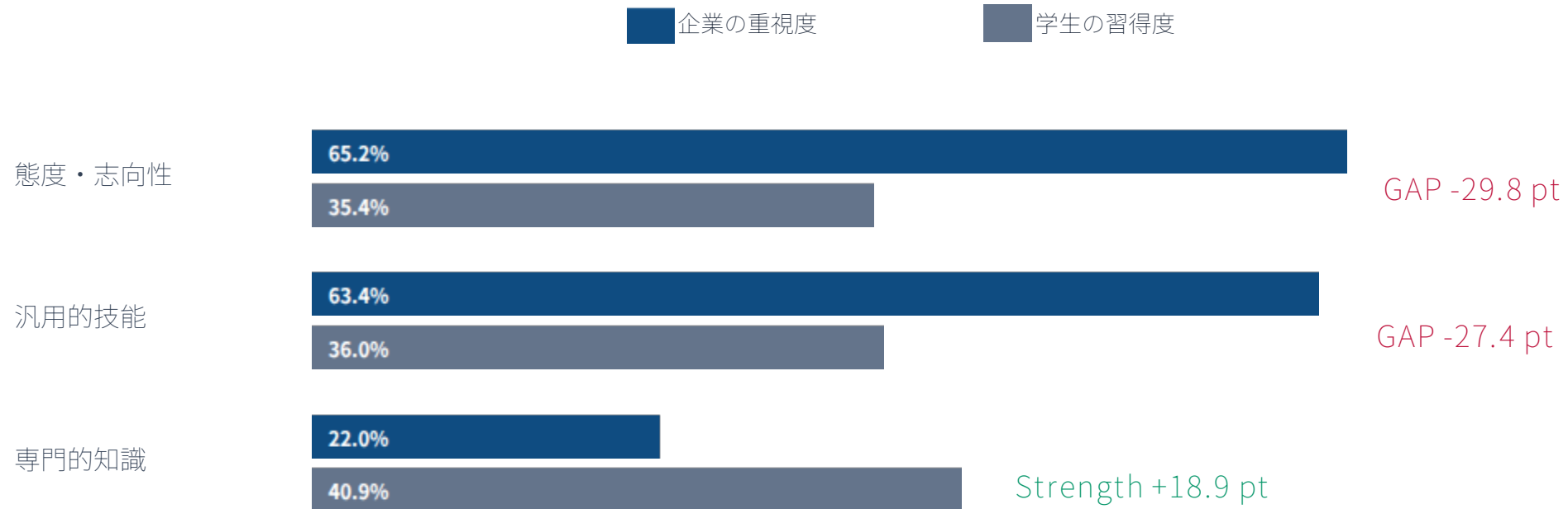
汎用的技能 = 知的活動や社会生活において必要となる情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力等の汎用的技能

態度・志向性 = 自己管理力、周囲(他者)への配慮、倫理観、社会的責任等の態度・志向性

課題解決力 = 獲得した知識・技能・姿勢等を総合的に応用する課題探求能力と問題解決力

企業は卒業生の「専門的知識」や「汎用的技能」の修得を高く評価している

分析：企業ニーズと学生習得度のギャップ



態度・志向性 = 自己管理能力、周囲(他者)への配慮、倫理観、社会的責任等の態度・志向性

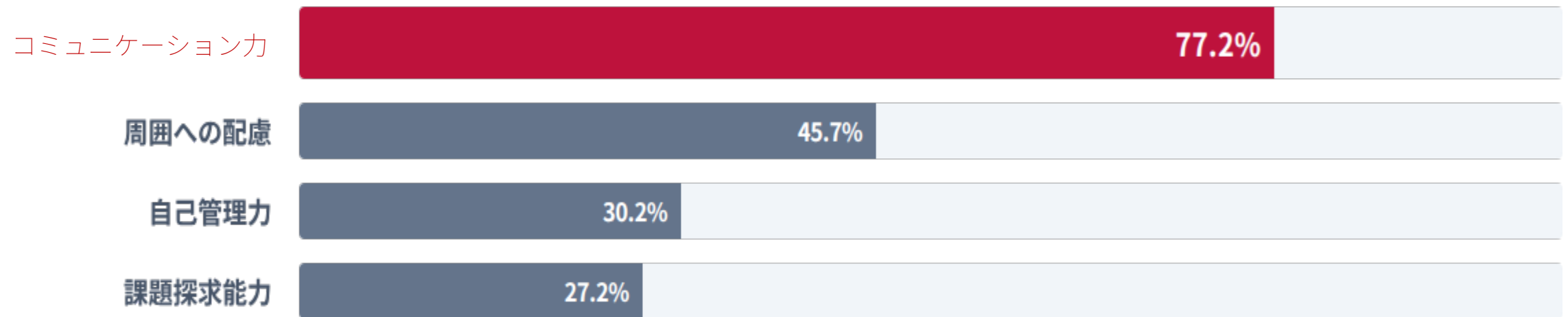
汎用的技能 = 知的活動や社会生活において必要となる情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力等の汎用的技能

専門的知識 = 卒業した学科・専攻の分野における 基礎的・専門的知識

「専門的知識」が強みである反面、「態度・志向性」と「汎用的技能」において乖離が見られる

今後強化すべき力：コミュニケーション力が1位

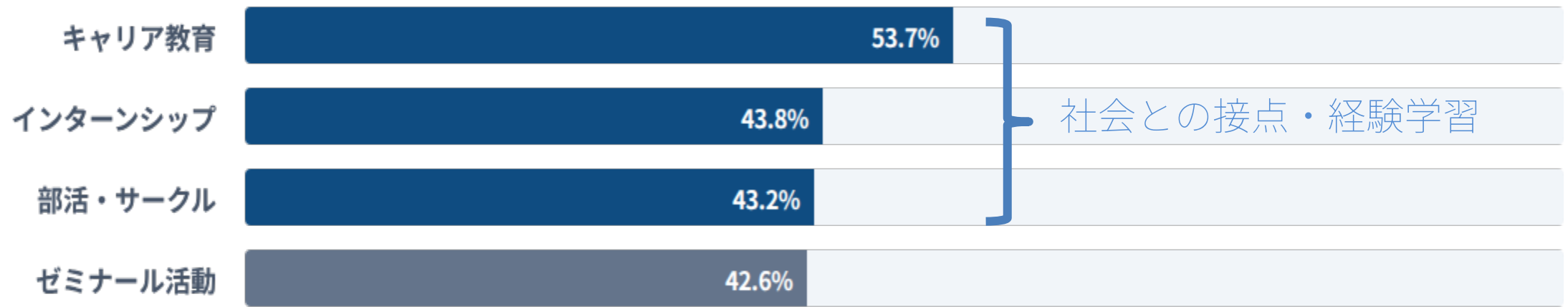
Q. 今後どのような力の育成を充実するのが望ましいと思われますか。（3つまで選択してください）



求められているのは単なる「発信する力」だけでなく、「周囲への配慮」や「自己管理」を含めた広義のコミュニケーション力

支援の方向性：社会経験の拡充

Q.本学はどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか。（3つまで選択してください）



Other items: アルバイト (37.0%), 地域貢献活動 (26.5%), ボランティア (16.0%)

座学だけではなく「社会との接点（体験）」の機会の充実が最重要課題である

今後の教育・支援

成果

本学の「専門教育」は一定の評価を得ており、本学の最大の強みとして堅持する。その上で、その知識が社会でどう役立つかという視点を強化する。

課題

企業等が重視する「態度・志向性」および「汎用的技能」において、学生の習得度とのギャップが存在する。

態度・志向性
自己管理能力、周囲(他者)への配慮、倫理観、社会的責任等の態度・志向性

汎用的技能
知的活動や社会生活において必要となる情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力等の汎用的技能

方向性

キャリア教育や課外活動を通して多様な他者と協働する機会を増やし、圧倒的に求められるコミュニケーション力を磨く実践の場を提供する。

具体的な施策案

- キャリア教育プログラムの拡充 (企業要望 53.7%)
- インターンシップの単位化・必須化の検討 (企業要望 43.8%)
- 課外活動・部活動への参加奨励 (企業要望 43.2%)

2025年度 卒業生アンケート 結果報告

名古屋学芸大学 キャリアサポートセンター

調査概要

実施時期： 2025年9月~10月

対 象： 2019年度、2021年度の卒業生 (約1,400名)

回 答 数： 141名 (回答率約10.1%)

回答方法： WEBアンケート

学科別回答数

映像メディア学科	65名
管理栄養学科	47名
子どもケア学科	25名
ファッション造形学科	15名
デザイン学科	14名
看護学科	1名

卒業生満足度: 教育内容への評価

大学全体への満足度



大満足 + 概ね満足

学部・学科への満足度

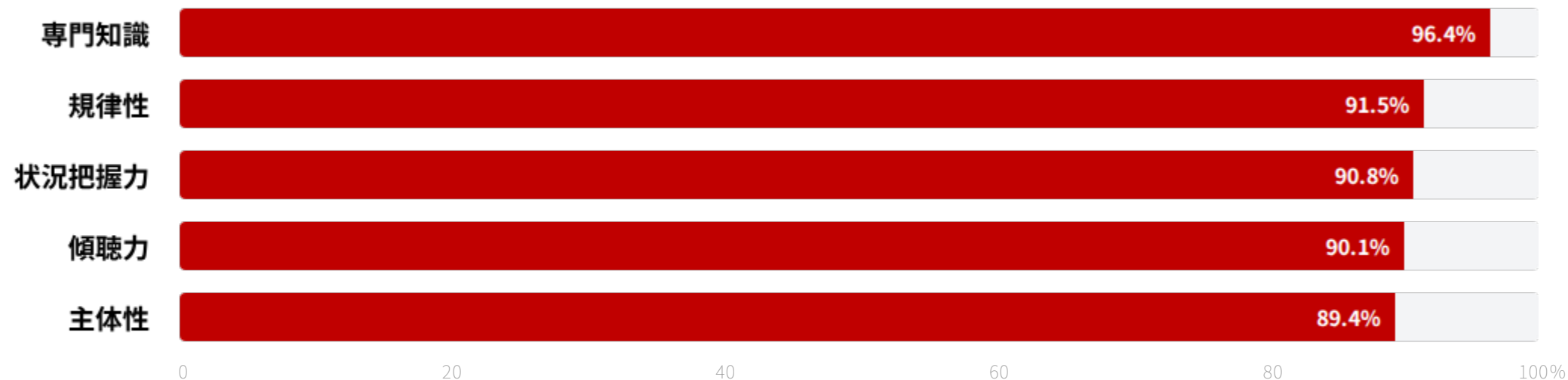


大満足 + 概ね満足

卒業生の大多数が大学および専攻内容に強い愛着と満足感を持っている。

習得スキル(強み): 専門教育の定着

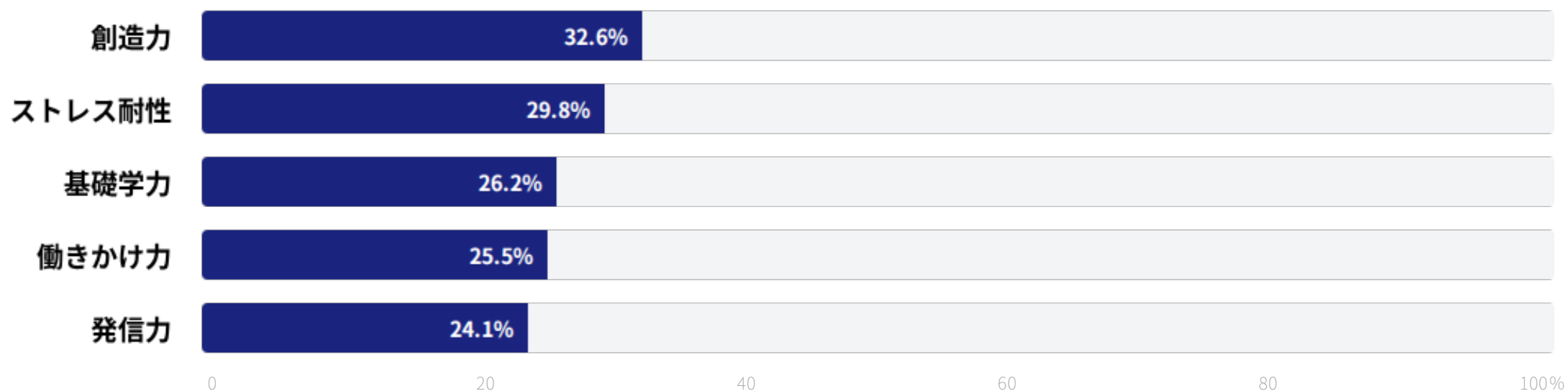
大学在学中に「とても身についた」「どちらかといえば身についた」



特に「専門知識」については46.8%が「とても身についた」と回答しており、専門教育機関としての役割を十分に果たしている。

習得スキル(課題)：創造力とストレス耐性の不足感

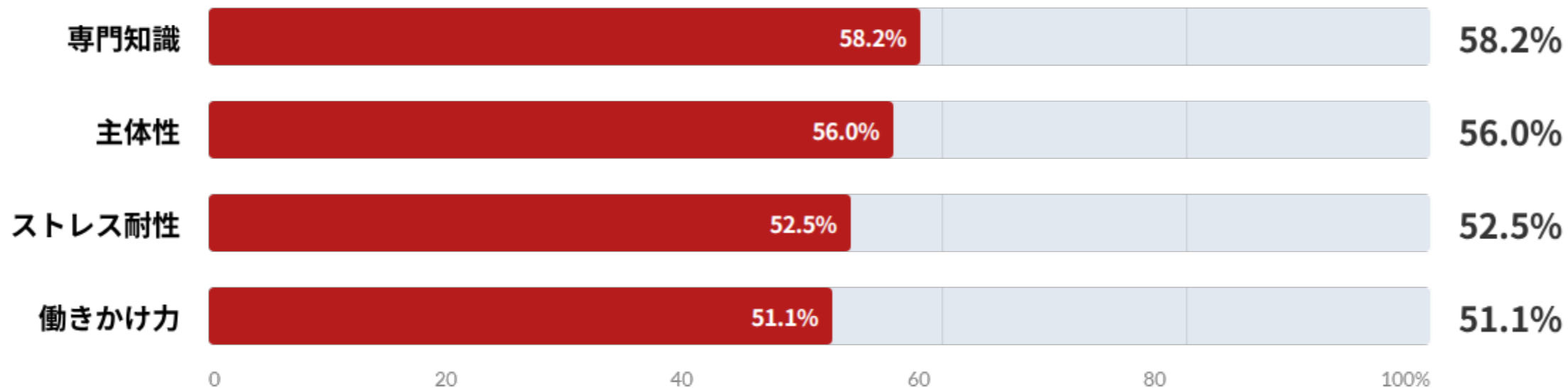
大学在学中に「あまり身につかなかった」「全く身につかなかった」



「傾聴」は得意だが「発信」や「働きかけ」、「ストレス耐性」に弱さを感じており、自信を持ってない卒業生が約3割存在している。

社会要求: 現場が求めるスキル

「現在のあなたに求められている能力（上位項目）」

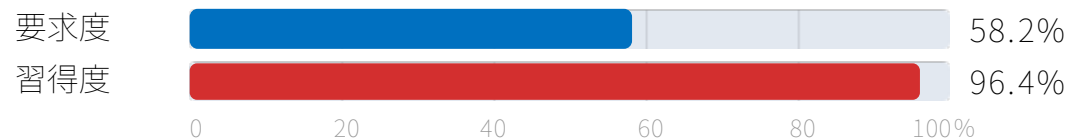


専門的なスキルに加え、ストレスのかかる環境下でも周囲を巻き込み主体的に動く「タフネス」が求められている。

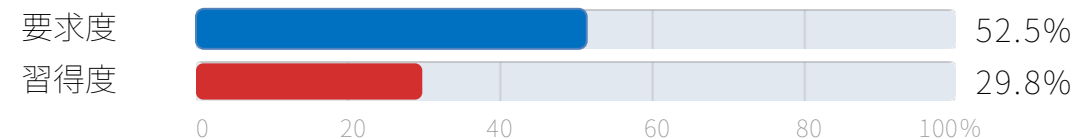
分析: マッチング・ギャップ

卒業生が大学で習得したと実感している能力と、実際に社会現場で求められている能力を比較検証

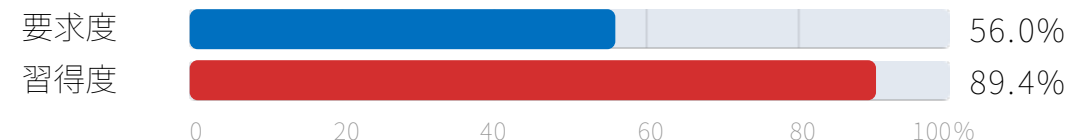
専門知識



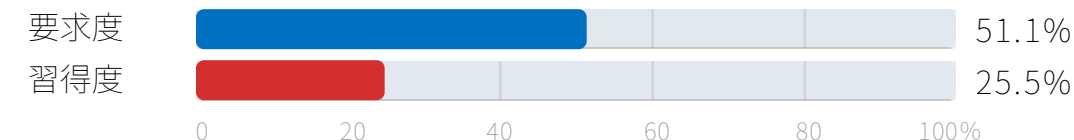
ストレス耐性



主体性



働きかけ力



「専門知識」並びに「主体性」は、社会の要求水準を大きく上回る成果が得られた一方で、「ストレス耐性（精神的タフネス）」と「働きかけ力（周囲を巻き込む対人折衝能力）」については、現場のニーズと卒業生の実感との間に大きな開きを確認された。

今後の教育と支援

高い専門教育の質

卒業生の満足度と専門知識の習得度は極めて高く、本学の最大の資産である。この水準を維持することが最優先。

「社会適応力」の強化

専門教育に加え、対人関係に関わる実践的なプログラム（インターンシップ、部活動等）の活性化が鍵。

専門性を武器にしつつ、社会の荒波を乗り越える「たくましさ」をどう付加するか。